

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■72■

私は城好きである。なぜか分からないが、好きなのである。息子もである。その理由を改めて考えてみた。

一つ目は、天守閣がある場合だが、眺めが良いこと。二つ目は、その地形を知ることができること。三つ目は、一番大きな理由だと思いが、歴史を知ることができること。これは、もとと大河ドラマが好きなのと同じ理由だと思つちなみに、4年前に1回だけ開催された「大河ドラマ検定」を受けた。

ではなぜ歴史を知ることが楽しいのか。そ

## 想像力かき立てる城

# 「人間ドラマ」楽しむ

これは、今の文化や街並みの由来を知ることができるということもある。昔のことなので自由に想像することが

できるということもある。ただ、やはり一番楽しいのは「人間ドラマ」を知ることができるといふことではないか。

古今東西、さまざまな出来事が起き、もちろん、時代の流れによって新しい出来事が発生することもあがるが、やはり共通のことが起

こり、歴史は繰り返されることが多いように思う。

インターネットによれば、群馬県内には少なくとも131もの城があるらしい。「群馬の城30選」という本も見つけた。そのうち、日本百名城に入っているのが金山城(太田市)、箕

輪城(高崎市)。続日本百名城に入っているのが、沼田城(沼田市)、名胡桃城(みなかみ町)、岩櫃城(東吾妻町)。

私は、この五つの城

から次に質問してしまおうが、いずれも面白いお話が返ってくる。金山城は水はけを大変気にしていたようであり、箕輪城は国史跡のエリアが拡大されたらしい。沼田城は、理由は定かでないが、礎石が見つかっていないそう

だ。名胡桃城は戦国時代を終わらせた城だし、岩櫃城は山登りも楽しめる。

ピソードを話していただけのことである。また、城主の末裔の方から、その城の歴史について、詳しくご教示いただきたいこともある。私だけであろうか。

岡山和裕(おかやま・かずひろ) 1969年

7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。

